

## 弘前大学男女共同参画推進室

## さんかくつうしん

～ news letter ～

Vol.3

科振費採択  
特別号  
2010.10

## 女性研究者支援モデル育成事業

「つがるネッサンス！地域でつなぐ女性人才」の採択と実施に寄せて



国立大学法人弘前大学

学長 遠藤正彦

私は、学長職にありながら、本学医学研究科の併任教授としてある講座に所属し、講義を受け持ち、研究も行っている。この実験講座には2人の女性技能補助員、いわゆる実験助手が活躍している。両人とも育児中であり、様々な子供の問題に日々対処していることを耳にする。

この2人はいずれも4年制大学の理系学部を卒業したが、うち1人はさらに修士課程を修了しており、研究職に就きたいという強い願望があったと聞く。地方都市・弘前で研究職を求めるのは容易ではない。それでも、両人とも、研究することの緊張と楽しさを感じてがんばっているように見受けられる。それは常勤の男性研究者と何ら変わるところはない。

この両人のように、研究を続けたいという強い願望があっても、それは本人の強い意志と健康だけでは成り立たず、配偶者や職場の理解等が不可欠である。また、何よりも研究と育児の両方を支える仕組みが必要である。この両人の例から、私は自分の最たる身近な問題として、この弘前市での女性研究者の問題は容易ならぬものがあると感じている。学長として何が出来るのだろうか。

このような問題意識から、平成21年10月に、弘前大学男女共同参画推進室を設置し、平成22年度の科学技術振興調整費の女性研究者支援モデル育成事業にも応募した。新たに弘前大学男女共同参画推進基金も設置した。幸いにもこの提案が採択され、少しずつ施策が動き出している。これを機にさらに全学的な試みを進めていくことによって、弘前大学を人才の育つ広場にしたい。

## 弘前大学の男女共同参画の推進

—ひろだいは“ダイバーシティ”をいっそう進めます—

国立大学法人弘前大学  
総務担当・  
男女共同参画担当理事

藁科勝之

2009年、弘前大学は男女共同参画推進基本計画と男女共同参画宣言を策定、公表した。

日本はかつて、「すべて国民は法の下に平等…人種、信条、性別、社会的身分又は門地により、政治的、経済的又は社会的関係において、差別されない。」（憲法14条）と定め、「個人の尊厳と両性の本質的平等」（憲法24条）を謳った。それから60数年を経て、近年ようやく、その具体的で有効な実施段階になったといつてよいだろう。

表現は異なるが、近年の“ダイバーシティ（多様性）”の受容という新しいコトバとその考えかたは、その精神と符合し、その内容を的確に言い表し、行動に結びつけているように思える。人はコトバで世界を知り、そのコトバが心を開く。

わが弘大も、このダイバーシティを念頭に置いた基本計画と参画宣言のもと、「つがるネッサンス！地域でつなぐ女性人才」の事業を展開し始めた。

あらゆる意味で、中央と地方の格差が集約している北辺の地方国立大学だが、この地方だからこそできることがあるだろう。弘大のルネッサンスである。智慧を出し合い、力を合わせて進めたい。

# なにがどうなる? 「つがるネッツサンス!」

## つがるネッツサンス・津軽ルネッサンス

いま、私たちがもっているものを芯にして、人材(才知ある人々)を育てる持続可能なしくみを作ろう、というのが、この提案の元になる考え方です。めざすのは、弘前という地方都市の条件を生かしたワークライフバランスです。「万能の人」を理想としたルネッサンス期になぞられました。

## 使える「資源」をネットワーク

弘前にあるもの何でしょう? 街はコンパクトだし、子育て・介護やその他生活上の行政や民間の支援もいろいろあります。学内でも色々な制度があるのを知っていましたか? これらの「資源」を相互につなげば、もう少し有効に使いそうです。このようなネットワーキングは「女性研究者」にだけでなく、弘前大学で学び働く多くの人にとっても役立つしくみづくりの基盤になります。

## なにがどうなるの? ネットワーク作りによる情報の流通促進

### 知れば使えるいろいろな制度

学内のいろいろな制度、行政や民間の支援など、何があるのか、誰を対象にしているのかは意外に知られていません。これらの情報を集め、制度にアクセスしやすい工夫をします。相談窓口も開く予定です。

### 使ってどう? の情報交換

使ってみた体験情報は、推進室に蓄積しHP等で紹介します。

### こんなキャリアもあり。ロールモデル提示と研究スキルアップ支援

女性研究者フォーラムでは、世代や部局を超えた女性研究者の交流を通して、研究生活やキャリア形成についての情報流通を促します。先輩研究者の姿はこんなキャリアもありというモデルにもなるでしょう。

### 裾野を広げるタスクチーム

男女問わず関われるタスクチームの活動には、学外向けの地域連携事業等とのネットワークで、研究力を高め、次世代の裾野を広げるねらいがあります。

### 地域との距離も近い 地方都市だからこそ、できることがいろいろあるはず

学外とのネットワークもつなげばさらに緊密に作れる可能性があります。地方都市だからこそその良さを活かせば、できることはもっと広がるはず。

## 弘前大学を人才の育つ「ひろば」へ

